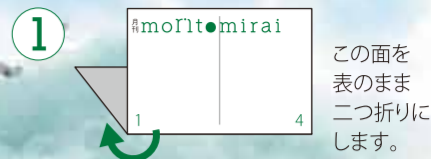


月刊 moritomirai

モリトミライ

2023.05

この紙面の読み方



月刊 moritomirai
次号は6月28日(水)予定

本紙面は山梨の森林サイト
「moritomirai」でもご覧いただけます
企画制作：山梨日日新聞社広告局



moritomirai.com

成長産業化めざす スマート林業

厳しい自然条件下で人力による作業が多い林業。担い手不足が指摘される中、作業の効率化や安全性の確保などが実現できるとして、情報通信技術(ICT)を活用した「スマート林業」が目ざされている。山梨県内では高度経済成長期に植えられた多くの樹木が伐採の旬を迎えていることから、人材の確保は急務。外国産材の高騰で国産材の需要が高まっていることを背景に、林業の成長産業化を実現するツールとして大きな期待が寄せられている。



「これしかない」。八ヶ岳南麓地域で林業を営む「天女山」(北杜市大泉町)の小宮山信吾社長は、5年前に林野庁が行ったスマート林業の研修会に参加し、こう直感した。林業の将来性に不安を抱いていた小宮山社長。「人材確保や労働災害の防止、利益をいかに上げるか...。その不安を解消するの

1
2



導入したドローン
＝北杜市大泉町の「天女山」

スマート林業
7ページ解説

ドローンによる森林調査で集めたデータを確認する小宮山信吾社長と長嶋啓貴部長。導入前と比べ作業効率は劇的に向上している。

地理空間情報や情報通信技術(ICT)などの最先端技術を用いた林業のこと。上空からレーザー照射を行ったり高性能カメラで撮影したりするドローンや、ICV(自律飛行ロボット)端末やスマートフォンを使った計測・トラッキングシステムなど多岐にわたる。効率化や省力化、安全性の向上などが期待されている。



ドローンによる森林調査で集めたデータを確認する小宮山信吾社長と長嶋啓貴部長。導入前と比べ作業効率は劇的に向上している。

担い手確保の魅力アップ

林業の担い手確保は、近年ますます重要な課題となっている。スマート林業の導入により、作業の効率化や省力化が進むことで、林業の魅力を向上させることが期待されている。また、ICTを活用した森林調査やモニタリングにより、作業の安全性も向上している。これにより、林業の担い手確保が実現し、持続可能な林業の発展が期待されている。

スマート林業の導入により、作業の効率化や省力化が進むことで、林業の魅力を向上させることが期待されている。また、ICTを活用した森林調査やモニタリングにより、作業の安全性も向上している。これにより、林業の担い手確保が実現し、持続可能な林業の発展が期待されている。

moritomirai



パノラマで森林調査の情報を確認する学生たち＝富士川・県立農林大学校富士川キャンパス

スマート林業の導入により、作業の効率化や省力化が進むことで、林業の魅力を向上させることが期待されている。また、ICTを活用した森林調査やモニタリングにより、作業の安全性も向上している。これにより、林業の担い手確保が実現し、持続可能な林業の発展が期待されている。



山梨県立農林大学校森林学専攻で行われているスマート林業の実習で、ドローンの飛行操作を体験する学生

illustration: オエムシ

4
3